

令和4年 3月25日

1、本園の教育目標並びに保育の重点

<教育目標> ・意志の強い実行力のある子ども ・健康で明るい素直な子ども ・心が豊かででのびのびと表現のできる子ども
<保育の重点> ・大勢の子どもたちの中から、気の合う友だちを見つけ、遊びを楽しむ。 ・異年齢の子どもたちとふれ合いの中で、優しい気持ちや思いやりの気持ちを育む。 ・様々な子どもたちとふれ合うことでトラブルもあるが、こうしたふれ合いの中で人とかかわり方をたくさん学んでいく。 ・様々な場で、思いの伝え合いを楽しむ。 ・お互い刺激し合いながら、いろいろなことに挑戦する。

2、本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

・褒めたり励ましたり、目当てを持てる声掛けをしている。 ・自ら考えたり工夫したりできるように見守りアイデアを提供している。
--

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1)褒めたり励ましたり、目当てを持てる声掛けをしている。	B	子ども理解を深めるよう努力したことで、一人ひとりの姿を把握し、個々の目標の設定や、そのための援助を考えることができた。 まだ全職員で連携しての対応はできていない部分があるので、今後は保育感の統一を行っていきたい。
(2)自ら考えたり工夫したりできるように見守りアイデアを提供している。	A	主体性を“心を動かす”と捉え、心を動かしながら遊ぶための保育環境について、一年間園内研修を重ねてきた。物的、人的の両面から環境を構成したことで、柔軟に考えながら遊ぼうとする子どもが増えたと感じる。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	子どもたちと教師の間に良い信頼関係を築こうとする姿が見られ、その中で褒める、共感することに工夫する姿がみられ、丁寧な保育に努めている。

5、今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼児の生活リズムを整えるための家庭との連携のあり方	アンケートを実施して幼児の生活について実態を調査し、その結果を伝え、保護者の皆さんが生活を振り返ったり見直したりするきっかけとしていく。
感染対策に取り組みながらの遊びの確保	時間の確保のみにとどまらず、遊びの継続を考えていく。また、密を避けるために集団の規模を抑えているが、少集団での異年齢縦割りなどを行い、刺激し合うことで遊びの発展を期待する等、新しい取り組みを実施したい。

6、学校関係者評価委員会の評価

評価	氏名	評価	氏名
A	山本 浩二	A	山本 浩二
A	山本 浩二	A	山本 浩二
A	山本 浩二	A	山本 浩二

7、設置者の評価

評価	印
A	天竺 善照

評価結果の表示方法
 A：たいへんよい
 B：よい
 C：一部検討を要する
 D：改善を要する